

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名【新】国内メディア表現教育集大成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail : c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 7,526 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予 算 額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要 求 額	7,526	3,763	0	0	0	0	0	0	3,763
決 定 額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

その分野の先駆である本学が30年の歴史で積み上げてきた「メディア表現」のメソッド（考え方、技法など）は、今や企業活動のみならず、大阪万博やオリンピック等の国際イベントや地方の情報発信事業などでも活用が進み、注目を浴びている。こうした背景のなか、国内でもメディア表現教育に注力する教育機関が増えている。

メディア表現教育は、アート、デザイン、工学、社会学など多様な分野の要素が学びの背景にあり、それを先駆的に実現してきた本学での教育の成果は唯一無二の教育コンテンツであり、それを再評価するとともに、今後の教育に活かし、将来を担う若者などにもPRしていく必要がある。そこで、開学30年を契機に、本学に蓄積された貴重な資源をアーカイブとして整理・公開するとともに、この分野の先駆である本学が中心となって、将来的にはメディア表現に関する学会の設立も視野に入れ、国内の同種の教育機関や企業、県民などが交流するフォーラムを開催し、今後の教育の発展に繋げる。

(2) 事業内容

①稀少教育コンテンツ・アーカイブ整備事業

- ・坂根巖夫氏アーカイブ（※本学初代学長、日本におけるこの分野の先駆者）
同氏が長年撮りためた専門家の発言などの記録映像で、大変稀少なもの
- ・IAMAS教育・研究成果アーカイブ
本学30年の教育・研究成果を整理し検索できるようにしたもの

- ・日本で開発された歴史的デジタル機器（P C、アーケードゲーム機等）
主に1980年代に開発された大変稀少なもの（当時県がソフトピアジャパンプロジェクトの一環で収集したもの）

②メディア表現フォーラム開催事業

- ・本学30年の歩みや研究成果を振り返るとともに、今後のメディア表現教育について議論する。（講演、パネルディスカッション、展示など）
参加者：国内の同種の教育機関、県内外の企業、卒業生、在校生、一般県民等

（3）県負担・補助率の考え方

県 1／2 国 1／2（地域未来交付金の申請を予定）

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	5,980	講師謝金
旅費	346	業務旅費
印刷製本費	200	フライヤー
保険料	20	イベント保険料
委託料	750	会場設営等
使用料	230	会場借り上げ費
合計	7,526	

決定額の考え方

予算を用いず、あるいは費用がかかる場合は既定予算の中で実施することとし、計上を見送ります。

4 参考事項

（1）後年度の財政負担

- ①稀少教育コンテンツ・アーカイブ整備事業
5ヵ年計画（R8～R12）
- ②メディア表現フォーラム開催事業
メディア表現に関する学会設立も視野に入れ、R9以降もフォーラム形式または会議での継続を想定

事業評価調書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業
□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

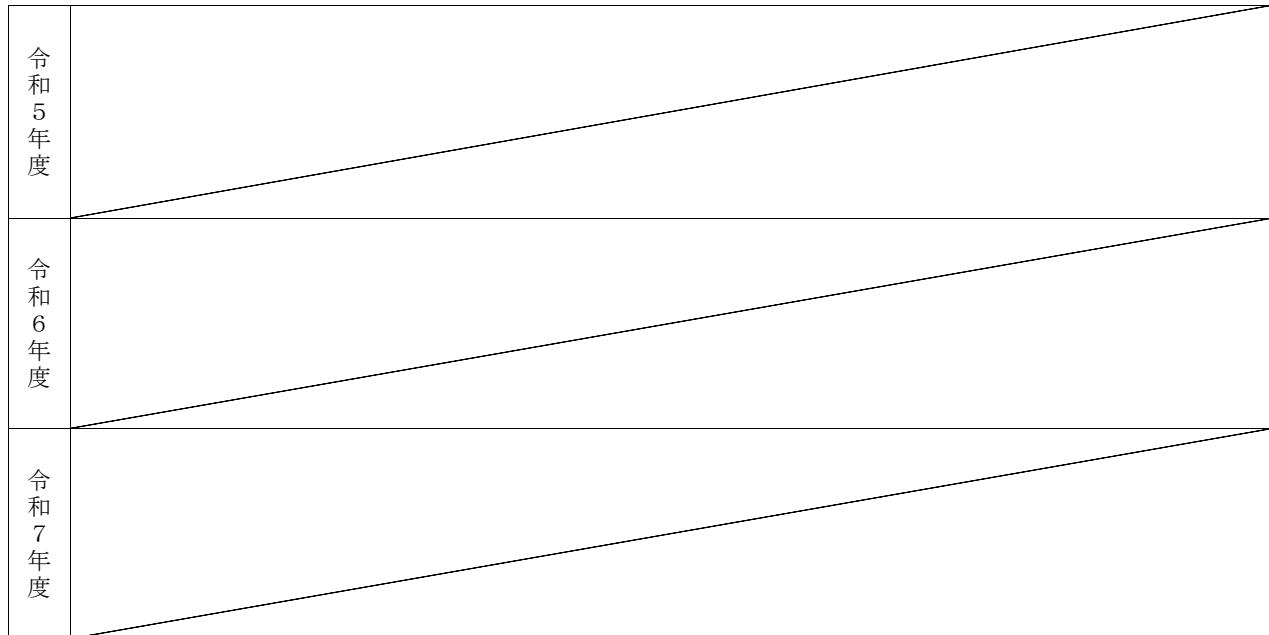
メディアアート界では世界的に知られるIAMASのこれまでの活動を総括・検証し、これを記録するために、節目となる30周年に記録事業（記念講演や記念誌の発行）を実施する。学術的共同体「メディア表現学会」の設立を見据えシンポジウムを開催する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R8)	H30- R5年度 実績（累 計）	R6年度	R7年度	R8年度	終期目標	達成率
			実績	目標	目標		
連携する教育機 関数	2校				2校	4校	-

○指標を設定することができない場合の理由

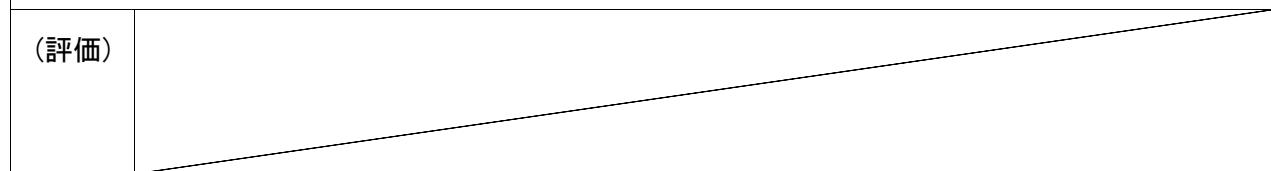
（これまでの取組内容と成果）



2 事業の評価と課題

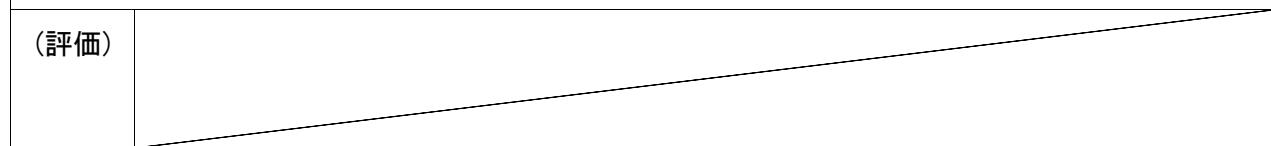
(事業の評価)

- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)
3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)	
------	--

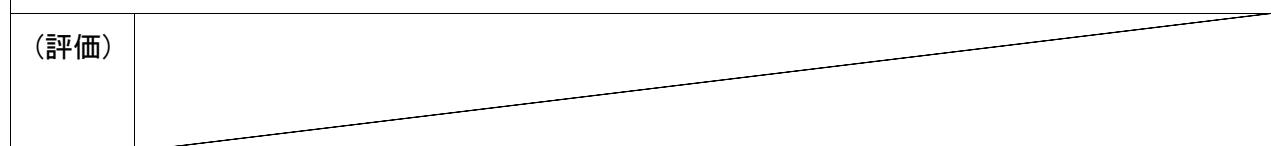
- ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価)	
------	--

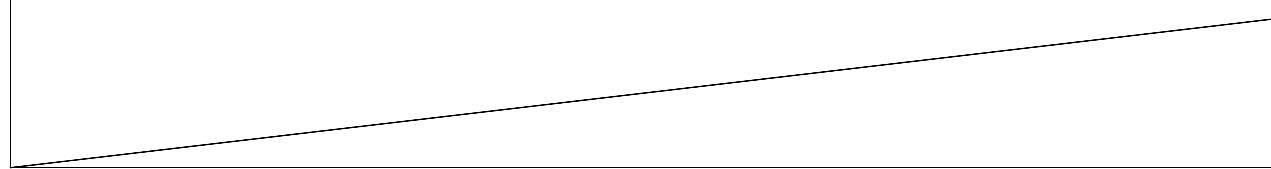
- ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)	
------	--

(今後の課題)

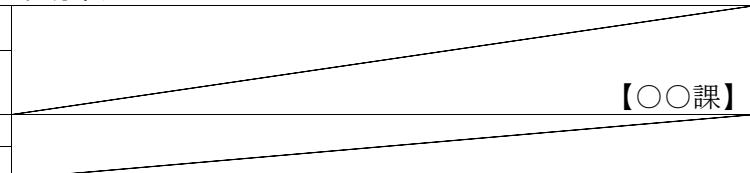
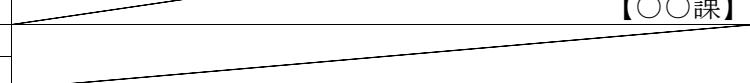
- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項


--

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
少子高齢化で入学者確保が益々厳しくなるなか、メディアアート界の先駆校かつ学部卒生や社会人の受け皿として、今後も本事業を通じて国内のメディア表現教育の発展に寄与し、本学の魅力向上に繋げる。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	

【○○課】